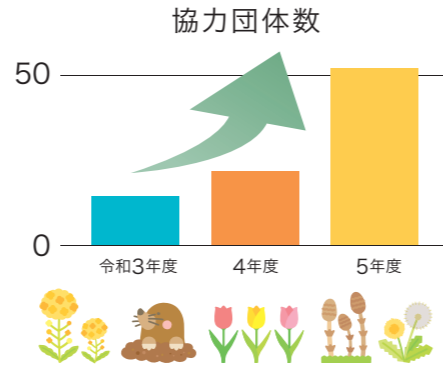


「まちの給水所」の輪が広がっています

まちの給水所とは？

区内の施設・事業所の皆様にご協力いただき、熱中症予防や地域の助け合いの輪を目的に、どなたでも飲料水等の提供を受けられる場所です。



多くの見守り協力事業者が「まちの給水所」に参加してくれているよ！のぼり旗やポスターが目印！

まちの給水所に参加いただいているみなさんから



暑い日の窓口の待ち時間に利用される方が多かったです。利用された方から「助かる」などお褒めの言葉をたくさんいただきました。



通りがかりの方が、のぼり旗を見て来局されました。薬以外に、地域の方と繋がるツールがあって助かります。

「まちの給水所」にご興味を持っていただいた方はぜひお電話ください。右の二次元コードから資料のお申込み・お問合せもできます！



問合せ先：港南区社会福祉協議会 電話：045-841-0256

(実施：港南区社会福祉協議会 港南区役所 港南区内地域ケアプラザ)



「こうなん」
まちの

見守り通信

第11号

港南区では、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるように、さまざまな「見守り・支えあい」の取組を進めています。



港南区
見守り協力事業者
登録数
424事業者
(令和5年12月末現在)

「見守り協力事業者」とは？

ふだんの暮らしの中で「あいさつ」や「声かけ」をきっかけに、ゆるやかな見守りに協力していただいている事業者の皆さんのことです。

今年度は、第4期港南ひまわりプランの中間振り返りの年にあたり、日頃ご意見を聞けていない地域の方々から、ご意見をうかがう機会としてグループインタビューを実施しました。区民の皆さんの生活に日常的にかかわる商店・企業等（見守り協力事業者の方々）にご協力をいただきました。



事前に参加を予定していただいた方で、ご都合がつかず当日のご参加が難しくなりました事業者さんもいらっしゃいました。お忙しい中、皆様のご協力に、日頃のご協力も含めて感謝いたします。

「第4期港南ひまわりプラン」(地域福祉保健計画)

計画期間：令和3年～7年度

～ふだんの暮らしをしあわせに～

誰もが住み慣れた地域で安心して健やかに生活でき、地域の中でお互いに支えあえるよう、区民の皆さん・活動団体・行政等が協力して地域をより良くしていくための計画です。



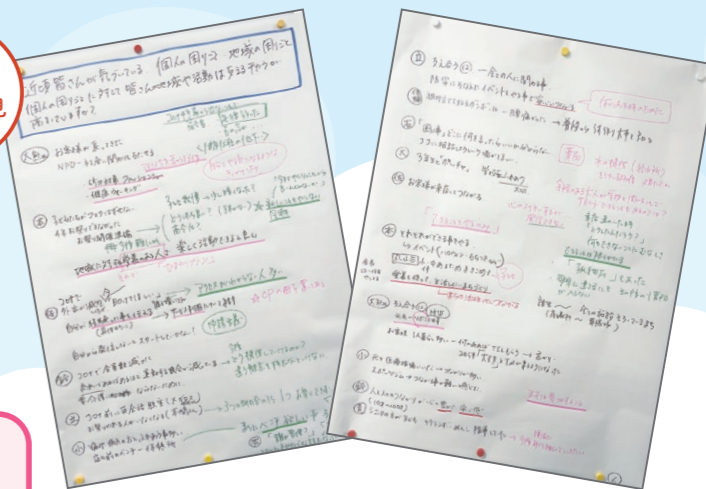
港南ひまわりプラン
推進キャラクター「こなちゃん」

見守りからえがおのまちへ

グループインタビューは、3つのテーマについてお話いただきました。
活動報告やご苦労されたことなどを紹介させていただきます。



皆様から
出たご意見



進行役は、よこはま地域福祉研究センター佐塚さんにお願いしました。

テーマ I
地域福祉保健計画「港南ひまわりプラン」
4つのアクションと12の取組を知っていますか？
第4期まで、計画にどんな関わりがありましたか？

(下記アンケートから回答いただきました)

港南ひまわりプランの基本理念は「ふだんのくらしをしあわせに」です。そして、「4つのアクションと12の取組」を示し、理念の実現を目指しています。あなたが関心を持ち、実際に取り組んでいるものにチェックをしてください。

4つのアクションと12の取組		チェック
1 知る	① 障がいや認知症などそれぞれの違いや多様性を知ろう	6
	② 必要な人に必要な情報を届けよう	5
	③ 暮らしている地域のことに興味を持とう	5
2 つながる	④ いろいろな世代や地域の団体同士がつながろう	3
	⑤ 誰もが安心して集まれる場 つながる場を広げよう	5
	⑥ 企業や商店・施設も地域とのつながりを広げよう	7
3 できる ことをやる	⑦ 自分自身のこと 家族のこれからを考えよう	7
	⑧ 一人でも仲間同士でも健康づくりに取り組もう	5
	⑨ 子どもも働き世代もシニアもみんなが地域で活躍しよう	4
4 支えあう	⑩ ちょっとした気づきをまわりの人につなげよう	8
	⑪ 子ども・青少年の育ちを地域で見守ろう	6
	⑫ ふだんから災害時にも助け合えるつながりをつくろう	5

テーマ Iのご意見

認知症の高齢者の方の対応は日常的に行なっている。多額のプライベートカードを購入しようとする方に、詐欺ではないかと確認しても信じ込んでいて聞き入れてもらえないこともある。配達にも対応しているが、気になる方でも部屋には入れないので、生活の様子がわからない。わかれば安全確認ができるのだが…。ひきこもりがちの独居高齢者の方は話をしたがない。子どもの万引き、喫煙などもある。夜10時以降は利用しないよう、声をかけている。

お店でのちょっとした気づきを周りの人に繋げるという取り組みを、職員で実践。日常業務の中でできることをしている。高齢者の方の困りごとなど、対応できない時は、地域ケアプラザにつなげている。たとえば、同じ商品を何度も買いに来る、支払いにお札ばかり使うなど職員同士で共有。プライドを傷つけないような対応が必要と日頃から気を付けている。

お店が鎌倉街道に面しており、スクールゾーンにもなっている。いじめと感ぜられる現場を目撃した際には学校に連絡し、情報共有と見守りを行っている。

地域とのつながりの大切さ、意義は日頃から意識している。コロナ禍、小学校の水泳(体育)の授業で施設を提供。子どもの利用者は共働き家庭が多く、学校以外の他年齢の交流の機会となっている。健康、運動という点で協力したい。

テーマ IIのご意見

薬の宅配をする中で買い物やごみ捨て、回覧板が回せないなど、ちょっとしたことで困っている方が多いと感じる。周囲も高齢化していて頼める人がいないのかな…。

子どもの怪我の対応をしても、親からクレームを言われる。認知症の方を保護しても、家族からはお礼も言われない。そんなことがあたり前になっていると感じる。自治会のお祭りも、みこしを担ぐ人がいない、担い手がないとのことで中止となった。そのような中で、子どもとの触れ合いが大切と思い、小学校と連携し、小学6年生60人を対象に、職場見学を実施した。継続して実施している。

コロナで4年間地域のお祭りができないことが続き、今までの経験者がいないため、一から始めなくてはならず企画ができない。高齢化もあり、再開できないところもある。また、新しいことはやらないという風潮もある。商店街がない、小中学校がない、若い人がいないなど町内会単位でのお祭りの実施は難しくなっている。地域に愛着のある人を増やし、楽しく活動できると良い。

コロナで外出の機会が減った。「助けて欲しい」「困っている」という方も多し。どこに相談するかなどの情報のない方には、自分が経験したことなどを具体的に伝え、地域ケアプラザにつなげたり、お店にパンフレットなどを置いたりしている。

テーマ II
近頃、皆さんが気づいている、個人の困りごと・地域の困りごと、それを支える力は高まっていますか？
これからどんな取組が必要だと思いますか？

テーマ III
参加してみた感想など。

テーマ IIIのご意見

「困りごと」があれば、「ここに相談」という情報を渡している。薬局は「まちの給水所」*となっているが、もう少し認知度向上が必要。
※裏面参照

よくご利用いただいていた方が来店しなくなり、気になっているが、何も行動できないことにむなしさを感じることもある。できることは限られるが、できることをやっていきたい。

「お祭り、ハロウィン、餅つきイベントなど、それぞれができることをやる。イベントに足を運び、地域の人を楽しみ、この地域に住むことができて良かったと愛着をもってほしい。それが地域の活性化につながる。丸山台は産婦人科から葬祭場まで、ゆりかごから墓場まで揃っている地域、この社会資源を活かしていきたい。

人と人とのつながりは心の豊かさ、安心感につながる。昔は地域に多世代の交流があり、高齢者が竹トンボやメンコなど子どもに教えていた。今後、復活できるよう考えていきたい。

